



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年05月23日 第1069号「週刊五十嵐レポート」

3つの不安

5月21日付日経新聞、「今期、経営者に3つの不安」という記事。上場企業の決算会見などのコメントからリスク要因を探った。

1. 原材料高(円安も加わる)、2. ロシアによるウクライナ侵攻長期化、3. 中国の都市封鎖による供給網混乱。

原材料高に関しては、大方当分続くという見方。対策は価格を転化するしか方法はない。価格転嫁できる企業とできない企業に分かれ、業績も二極化していく。中国に都市封鎖は、時期が来れば解除されるので、混乱は一時的であり長期化はしない。一番読めないのがロシアのウクライナ侵攻がいつ終結するか。

今から10年ほど前、日本産業界では、「六重苦」と言われた。1. 円高、2. 法人税率の高さ、3. 自由貿易協定の遅れ、4. 電力不足、5. 労働規制の厳しさ、6. 環境規制の厳しさ。今では円高が円安になっただけでその他は今でもほとんど変化がない。時間が経つと常態化して平気になる。今の3つの不安もいずれ常態化して気にしなくなる。

5月22日付日経新聞、「外食、4年ぶり出店増」という記事。コロナ禍で不採算に陥った店舗の閉鎖が一巡し、出店数から閉店数を差し引いた店舗増加数もコロナ禍の19年度の2倍の水準に達する。大手外食が22年度動き出した。裏を返せば、20年度、21年度はほぼほぼ大手は動いていなかったことになる。

中小企業の飲食店はどうしたか？コロナ禍の約2年強で出店した。ある飲食店社長、「20年の最初の非常事態宣言時はきつかったが、ピンチがチャンス。資金が潤沢にあったおかげで、新規出店ができた。コロナ禍でなければ、我々中小企業が出店できない立地。条件もこちらの言い分が通った」。またある小売業の社長、「ショッピングモールに3ヶ所入居できた。こちらの条件を飲んでくれた」。

弱者は強者と同条件では戦っては勝てない。厳しい環境下の中では強者も動けない。このような時に動けるか否か。いざという時に、每期毎期の積み重ねが生きる。

ちょっと
気になる出来事

5月21日付朝日新聞「いざというとき本を開く」より。「できる大人の『頑張らない』主義」(都甲幸治)。

「エフォートレス思考」(かんき出版、マキューン) マキューンは言う。頑張れと言われて育った私たちが失敗するのは努力不足ではなく、努力のし過ぎによることが多い。我々は頑張ればどうにかなる、という成功体験を積み重ねてしまう。大人になると大きな落とし穴になる。年々体力が下がり、できることは減る。それでも高い水準で仕事をこなさなければならぬ。ならばできるだけ少ないエネルギーと時間で物事を成し遂げる方法を探すべきだ。それは手抜きではなく、むしろ誠実な態度である。

「小さな習慣」(ダイヤモンド社、スティーブ・ガイズ)、何事も続いたためしのない彼がある日、思い立ったのは、腕立て伏せ1回チャレンジだった。そしてこのあまりに志の低い挑戦が彼の人生を大きく変える。たった1回なら気軽にできる。そして1度やり始めたら、2回3回と増やすのは容易。そうやって彼は抵抗感を感じない程度の小さな試みを毎日続けることで自分自身を変えることに成功した。

私は、晴れた日にランニングをする。ちょっとキツイけど、無理をしない。それが私の続ける秘訣かな。



一口メモ
知識

速やかな補修

大過は棟撓(むなぎたわ)む。

大いに過ぎると棟が撓(たわ)むとは、建物の内部が余りにも重く、それに対して屋根や柱が貧弱なために建物が撓んでしまうことをいう。

組織構造に喩(たと)えるならば、中間層の勢力が強力で、それに比して上層と下層の力が脆弱なため、物事を動かそうとすると組織が倒壊しかねない非常時である。

撓んだ組織は一度壊して建て直すのではなく、速やかに改修すべきである。家の修復のように細やかに徐々に補強して形勢を整えよ、と易経は教えている。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com



新経営の志手帳